

宮古恵風支援学校

研究テーマ

「児童生徒の学びの充実を実現する授業づくり」

～3つの視点に基づいた授業改善～
(二年度研究一年目)

1 全体研究

(1) 主題設定の理由

新学習指導要領の実施に伴い、県教育委員会では「確かな学力育成プロジェクト」を推進し、「いわての授業づくり3つの視点」について、児童生徒の資質・能力の育成を目指して再整理している。

そこで、本校では前次研究から活用している「授業づくりシート」をさらに発展させながら、児童生徒の学びの充実を実現するため、3つの視点「①学習の見通し」「②学習課題を解決するための学習活動」「③学習の振り返り」に基づいた授業改善を行うこととした。

(2) 研究の目的

「3つの視点」に基づいた授業改善をすることで、児童生徒の学びの充実（何ができるようになったか）を実現する視点を明確にし、児童生徒の資質・能力の育成を目指す。

(3) 研究の内容・方法（一年次）

各学部で、「授業づくりシート」を活用しながら、3つの視点に基づいた授業づくり、PDCAサイクルによる授業改善を行い、授業実践を重ねる。

12月に各学部の音楽の授業で全校授業研究会を行い、各学部の3つの視点に基づいた授業実践について検討し、児童生徒の学びの充実を実現する授業づくりについて共通理解を図った。

2 各学部の実践

(1) 小学部

前次研究で作成した「授業づくりシート」を活用した授業実践を行いながら、3つの視点に迫るために必要な目標設定や授業構成、指導方法の在り方について検討した。学部で統一した形式は提示せず、教科毎に実践しやすい方法でテーマに迫る授業づくりを行った。その中で、

なぜその単元や題材に取り組むのか、その学習を通して児童は何ができるようになったのかという、学びの充実を実現させる視点をもつことができた。

授業改善の結果、児童にとっては、できるようになりたいことが明確になり、目標意識をもって学習に取り組むことができた。

(2) 中学部

前次研究から活用している「授業づくりシート」に3つの視点を盛り込み、授業実践を行った。検討を重ね、全教科で統一した様式を進めることを確認した。授業実践の中で、保健体育の学部授業研究会を行い、3つの視点に基づいた授業で見られた生徒の姿について確認し、学びの充実の実現に迫った。生徒たちは、目標を意識し、見通しをもって学習に取り組み、学習課題に自分の力で取り組もうとすることができるようになった。

(3) 高等部

保健体育、音楽、自立活動のグループに分かれて、授業実践を行った。前次研究で作成した「授業づくりシート」を活用しながら、どのように3つの視点を取り入れるのかを検討した。研究推進の過程で、3つの視点を取り入れた授業づくりについて理解が深まり、日々の授業に生かすことができた。そのことで、生徒の学習活動が分かりやすくなり、集中力が増したり、次への課題意識をもったりして学習に取り組むことができた。

3 講演会

演題：「家庭支援が必要な児童生徒への対応」

講師：岩手県宮古児童相談所

所長 那波 和久 氏

期日：令和2年8月4日(火)

参加者：70名

4 刊行物

今年度は作成いたしません。